



中 田 小

平成29年8月28日

## 学 校 教 育 目 標

さわやか笑顔中田っ子 思い合い ひびきあい  
共に生きる力を育てます。

## 中田小ホームページ

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nakada/>

## 「いいぞ、いいぞ、みんな。」

校長 蒲谷 猛

## 『この道』

作詞：北原白秋

作曲：山田耕筈

この道はいつか来た道  
ああ そうだよ  
あかしやの花が咲いてるあの丘はいつか見た丘  
ああ そうだよ  
ほら 白い時計台だよこの道はいつか来た道  
ああ そうだよ  
お母さまと馬車で行ったよあの雲もいつか見た雲  
ああ そうだよ  
山査子（さんざし）の枝も  
垂れてる

夏休み終盤、今日も校庭から本校マーチングバンドの練習する音が聞こえてきます。暑さにも負けず、一夏をかけて少しずつ今年度のショーが築きあげられてきています。5m間隔でマークが打たれた30m四方のエリアを座標にして、一人ひとりのメンバーが自分だけの動きを覚えていきます。同じ動きをする人はいません。本番での「感動体験の共有」を目指して練習を積み重ねることは、吹奏楽や合唱などとも同じですが、完全に一人一役であるという点はマーチング特有です。まだ道半ばですが、まずは、この夏の子どもたちと指導者の努力を賞賛したいと思います。

私がマーチングバンド指導者として、全国大会で日本武道館の入場口前で出番待ちをしているときの話です。ふと気がつくと、一つ前の出番待ちをしている学校の子どもたちの手にサインペンで文字がいっぱい書いてあります。数人に声をかけて見せてもらったら、自分の所属校も含め、「〇〇小打倒!」「△△小に負けるな」という類いの書き込みがびっしり書いてありました。見せてくれたお礼は笑顔で言ったものの、ぞっとしてしまいました。

負けたくないという気持ちをもつことはもちろん大切です。スポーツの大会も音楽のコンクールも、その気持ちがなければ始まりません。でも、「人を蹴落とすこと」を自己成長の目当てにすべきではないと私は考えます。自分がそれまでの自分よりも努力を重ねれば、必ず今の自分よりも向上するということを大切にしたい。ライバルは他人ではなく己であり、己が努力をすればおのずと人より秀でるでしょう。まさに、柔道家嘉納治五郎の名言「人に勝つより自分に勝て」です。

7月末、本校プールを会場に区水泳大会が行われました。泳いでいる選手はもちろんのこと、応援も各校一致団結して熱が入ります。「行っけ一行け行け、行け行け〇小、押っせー押せ押せ、押せ押せ〇小」「いいぞいいぞ〇小、Hooo!」全力での自校応援のなかに、「〇小」の部分「みんな」に置き換える応援が聞こえ始めました。自校が誰も泳いでいないレースの時にも、他の2校を同時に励まそうと考え、応援をリードする児童がとっさに発案したようでした。「いいぞ、いいぞ、みんな。」すばらしい感性です。

課業期間より時間が自由になった夏休みが終わりました。夏休み前には、朝会でチャンスの神「カイロス」の話をしたのですが、いざ、時間が自由になると、「己に勝つ」のは難しいものです。かく言う私も、恥ずかしながら、休み前の取組リストのうち、達成したのは半分もいかず、達成感があるのは、ウッドデッキ完成のみ。この夏を振り返りつつ、一年で一番長い課業期間である冬休み前までの時期を、子どもたち、全教職員とともに一層充実させていきたいと思ひます。